

知ると楽しい 楽しいからもつと知りたい教養の作り方⑧

教養の定番「読書」

学力研常任委員 深沢 英雄

一、「えー。本読まないのー。」

大学の講義で「最近読んでよかつた本を一冊選び、班のメンバーに紹介する」というワークをしました。説明が終わつたあと「質問はありませんか?」と問うと、ある学生が「先生、私、本を読んでないんですが。どうすればいいですか?」と尋ねてきました。「最近でなくともいいので、読んだ本はない?」など、「私、大学に入つて一冊も本を読んでいません。」というのです。「講義や、ゼミで本を読んでないの?」と重ねて聞くと「ゼミの時は先生が印刷してくれるから、そのプリントを読みました。」と答えてくれました。

今年の一月二十六日に、全国大学生協(東京)の一日の読書実態調査で、「大学生 読書時間ゼロ 半数超」という記事が載つて

いました。大学生の53%がゼロを回答しました。120分以上と答えた学生は、5.3%。「本を読むべきだ」と答えている学生は84%です。教育学部の学生です。超忙しい教育現場に入つて、本を読むのでしょうか。

大学で担当していた学生が、今年講師で小学校の教師になりました。採用試験に合格したので、久しぶりに出会いました。「先生、今も本は読んでます。卒業前に、先生から現場に入ると本が読めなくなるよ。自分で工夫しないと、と言われたことがずっと頭にあって、自分なりに時間を決めて本を読んでいます。」と語ってくれました。こういう若い先生に出会うと嬉しいです

二、なぜ本を読むのか

幻冬舎の社長の見城徹さんの読書論の中に、自己を成長させる上でのプロセスが載せられています。次の3つを繰り返すことが大事だと書いています。

「私は、自己検証、自己嫌悪、自己否定の三つがなければ、人間は進歩しないと言つていい。自己検証とは、自分の思考や行動を客観的に見直し、修正すること。自己嫌悪とは、自己意識過剰さや自己顯示欲を恥じ、自分のズルさや怠惰さに苛立つこと。自己否定とは、自己満足を排し、成長しない自分や、自分が抛つて立つ場所を否定し、新たな自分を手に入れることだ。」現状に安住し自己検証と自己嫌悪、自己否定を忘れるようなことがあれば、生きている価値がないとさえ思う。自分が駄目になつていく恐怖、老いていく恐怖と常に戦つてこそ、僕は僕であり続けられる。そうした感情を味わえるのが、まさしく読書なのだ。本を読めば、自分の人生が生ぬるく感じるほど、苛酷な環境で戦う登場人物に出会える。その中で我が身を振り返り、きちんと自己検証、自己嫌悪、自己否定を繰り返すことができる。読書を通じ、情けない自分

と向き合つてこそ、現実世界で戦う自己を確立できるのだ。」と書いています。

三、教師は何のために本を読むのか

では、教師は何のために本を読むのでしょうか。

教師は専門家としての必要な技能・識見・教養・情報を貪欲に身に付けなければなりません。教師としてぜひ身につけなければならぬことは、いろんな教育書を読むことによって、相当吸収することができます。単行本・雑誌を問わず、ふんだんに読み取つてほしいものです。時間はかかりますが、時間をかけただけ十分ねうちのあるものとして返つてきます。

岸本先生に、「深沢君。若い時に本をできるだけ読んでおきなさい。ほんの少しづつの蓄積が三年後、五年後、十年後につのりのあるものとして、世のため、人のため、そして自分のために貢献できるから。年をとると、哀しいことに本を読むとすぐ目が疲れるし、体力・根気がとみに衰えてくるよ。読みたい本はわんさかあるのに。若い

ころにもっと本を読んでおけばよかつたといつも後悔している」と言われました。「えい。岸本先生ですか?」とびっくりしました。岸本先生の家は、コンクリート製です。教え子が設計してくれたそうです。図書館かと思うほどの本がある岸本先生でさえ、読み足りないのか思つたものです。

今はなんでもネットの時代です。ある先生がこう言つっていました。「最近の学生や若い先生の指導案を読むと結構うまく書けています。でも実際の授業を参観すると全然なものです。それは、ネットで調べて、指導案を書くので手軽に形としてはそこそこの指導案ができるからです。」と言つていました。みつちり本を読んでの学習が足りりないようです。

ルネ・デカルトは「良き書物を読むことは、過去の最も優れた人達と会話をかわすようなものである。」ソクラテスは「本を読むことで自分を成長させていきなさい。本は著者がとても苦労して身に付けたことをたやすく手にいれさせてくれるのだ。」と述べています。

岸本先生に言われたのは、「教育関係の本だけではなく、それ以外の幅広い分野の本を読みなさい。世の中の動き、歴史や経済や科学の動向など、まともな本を読むべきです。雑学です。十年、二十年後にその雑

学で得たなにかがとても生きてきます。幅広い考え、独創的な発想の基盤は雑学によって築かれます。特定の分野に偏注し、趣味人の域を超えて、専門家はだしになることもあるかも分かりません。それは実に楽しいことです。どんな職業についても、どんな地位を得ていても、雑学の豊かな人と、それに乏しい人では、何かが一味違つてきます。生きしていく上での幅と厚味と余裕のによるところが多いのです。それは専門的な仕事、つまり教師としての力量の高低にも、かなり影響を及ぼしていきます。

本を一冊読むと次の読むべき本に出会います。読めば読むほど、疑問が生まれてまた本を読んでしまいます。本は、教養を生む源泉です。